

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

兵庫県 丹波篠山市

自治体名： 兵庫県丹波篠山市

担当課名： 丹波篠山市教育委員会事務局学校教育部学校教育課

電話番号： 079-552-5653

1.自治体の基本情報

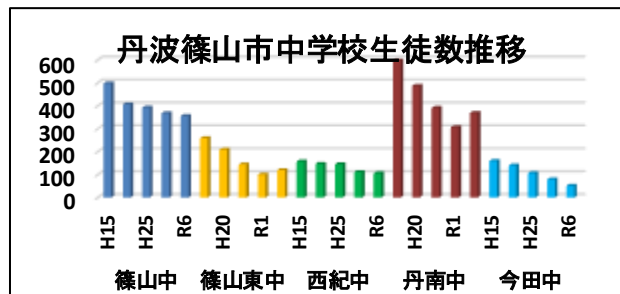
基本情報

面積	377.6 km ²
人口	40,000人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	1,002人
部活動数	51 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和7年度部活動改革連絡協議会設置予定
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	「丹波篠山市部活動改革における方向性」作成

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

丹波篠山市は、兵庫県中東部に位置し、自然豊かな田園風景に囲まれた人口4万の都市である。平成11年に4町が合併し、篠山市となり、さらに平成31年より、「丹波篠山市」と市名変更した。中学校は市内に5校あり、うち2校は生徒数300人程度の中規模校であり、その他3校については、1学年1学級の小規模校である。下グラフにあるように、生徒数も非常に減少傾向にある。右下表にあるように各中学校の部活動数についても若干減少している。しかし、生徒数の減少と比較すると部活動数の減少は少なく、各校部活数に対して、生徒数の減少に伴い、種目によっては試合に参加できる人数がそろわず、十分な活動ができない活動も見られるようになった。平成25年には、ソフトボールで市内初の合同部活動がスタートし、現在も複数種目で合同部活動を行っている。

さらに小規模校ではサッカー部やバスケットボール部などがなく、選択の幅は制限されている。そのような状況を踏まえ、令和6年度は4種目（サッカー、剣道、ソフトボール、ホッケー）で休日地域クラブを立ち上げ、市内全ての生徒が参加可能な活動を開始した。4種目については地域の競技団体やクラブチームが受皿となり、そこから地域指導者を派遣し、充実した活動を展開している。この4種目については、地域の協力者と学校の連携が十分に図られ、平日・休日の混乱も少なく活動できている。令和7年度へ向けこれら先行地域クラブの活動をモデルにさらなる受皿の確保を目指す。同時に学校部活動に係る教員のさらなる負担軽減へ、部活動指導員のさらなる配置強化を進める。部活動指導員については、部活動地域連携へ向けて、合同部活動の実施等さらなる協力を依頼している。



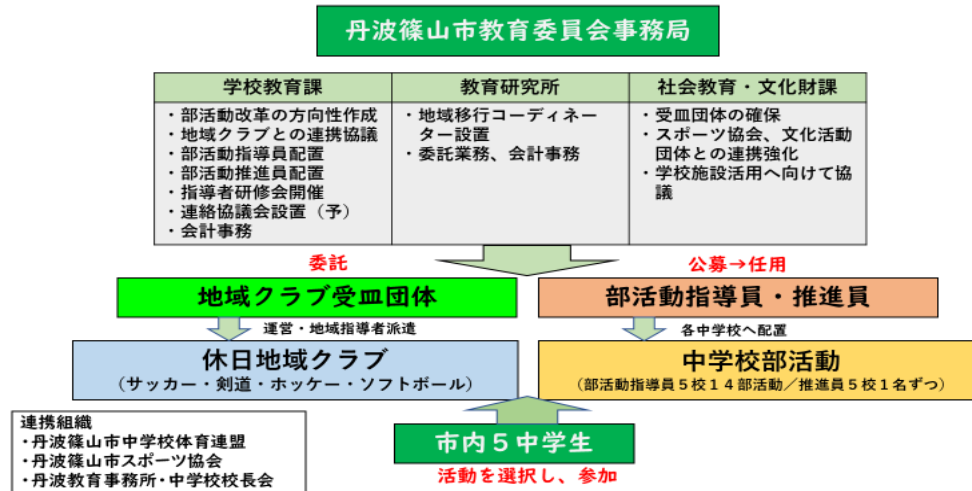
	篠山中	篠山東	西紀中	丹南中	今田中	合同	地域クラブ
H15	17	9	7	16	7	0	0
H20	17	8	7	15	6	0	0
H25	17	8	7	13	6	1	0
R1	17	8	7	13	6	2	0
R6	17	7	6	12	5	3	5

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（丹波篠山市推進体制図）

★令和6年度丹波篠山市運営体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課・・・運営事務局、地域クラブ連携協議、部活動指導員配置
- ・教育研究所・・・地域移行コーディネーター配置
- ・社会教育・文化財課・・・競技団体との連携、学校施設等の活用へ向けた協議

◎首長部局

- ・秘書広報課・・・啓発活動
- ・総務課・・・部活動指導員、推進員の任用について

年間の事業スケジュール

令和6年4月	地域クラブ委託契約・活動開始
令和6年4月	部活動指導員公募
令和6年5月	部活動指導員任用開始
令和6年8月	令和7年度方向性協議
令和6年10月	丹波篠山市部活動改革方向性策定
令和6年11月	部活動改革方向性について保護者啓発開始
令和7年1月	部活動指導員研修会（令和7年度地域連携協力へ向けて）
令和7年2月	協議会（地域クラブ活動の成果と課題検証、令和7年度の取組について）
令和7年3月	部活動指導員人材バンク登録開始

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ（4 種目）
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（1 1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	1 6 人	全体の運営スタッフ数	2 4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
丹波篠山市 剣道連盟 中学部	スポーツ 協会	剣道	月 4 回程度 （土曜日中 心） ※丹南剣道教 室は平日習 3 回程度	休日主 に9:00- 16:00の 間で活 動	2 0 人	令和 6 年 4 月～令 和 7 年 3 月	市内中学 校武道場	4 人 1 回の指 導は 2 名 以内	0 人	月会費 1,000円	中体連：地 域クラブ その他：地域 クラブ
HC HYOGO HEARTS	地域クラ ブチーム	ホッケー	月 4 回程度	休日主 に9:00- 16:00 の間に活 動	男子 3 8 人 女子 7 人	令和 6 年 4 月～令 和 7 年 3 月	市内中学 校グラウンド /丹波篠 山スポー ツセンター	6 人 1 回の指 導は男女 2 名以内	7 人	年会費 8,000円	中体連：地 域クラブ その他：地域 クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	5 クラブ（4 種目）
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		5 クラブ（1 1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		なし
全体の指導者数	1 6 人	全体の運営スタッフ数	2 4 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
丹波篠山市女子中学校ソフトボールクラブ	スポーツ協会	ソフトボール	週 4 回（土曜日中心）	休日主に9:00-16:00の間で活動	8 人	令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月	市内中学校グラウンド	3 人 1 回の指導は 2 名以下	1 人	月会費 1,500 円	中体連：部活動 その他：地域クラブ
丹波篠山サッカークラブ	地域クラブチーム	サッカー	週 4 回（土曜日中心） ※不定期で火曜日夜ナイター練習	休日主に9:00-16:00の間で活動	2 1 人	令和 6 年 8 月～令和 7 年 3 月	市内中学校グラウンド	3 人 1 回の指導は 2 名以内	0 人	月会費 2,000 円／ 年会費 1,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

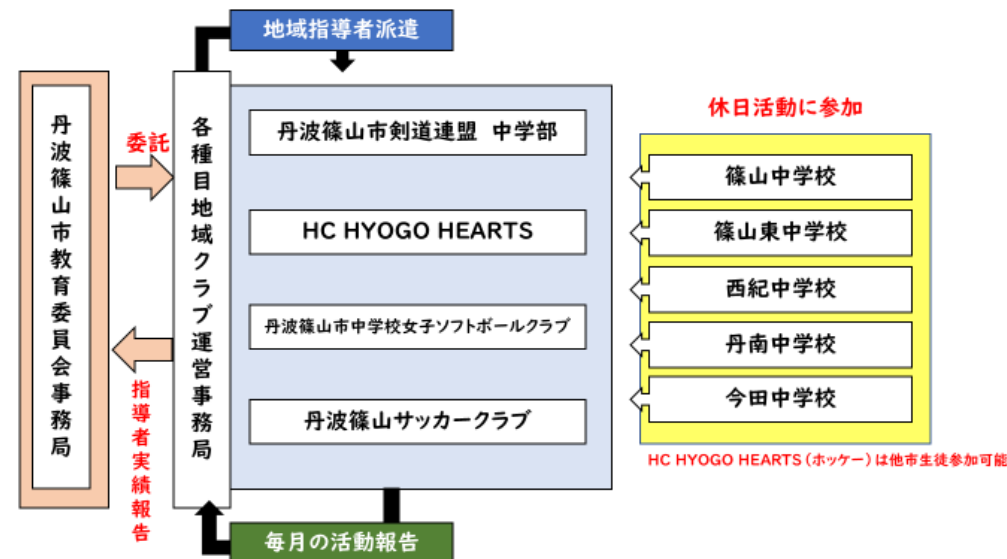
2.実証内容と成果

主な取組例

●丹波篠山市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道、ホッケー、ソフトボール、サッカー
運営団体名	丹波篠山市教育委員会事務局
期間と日数	剣道、ホッケー、ソフトボール： 4月1日～3月31日 月4回程度 サッカー：8月1日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	地域指導者（協力者）・教員（兼職兼業）
活動場所	市内中学校施設、その他市内施設
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎等
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：25,000円 剣道：12,000円 ホッケー：8,000円 ソフトボール：18,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,350円/年 ※生徒分は保護者負担

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者（教育委員会事務局、コーディネーター、教育委員会指導主事）
役割：部活動改革の方向性作成、活動報告調査、地域クラブ連携
- 主任指導者 4名（各地域クラブ団体代表）
役割：地域クラブと教育委員会との連絡調整、地域クラブ活動計画作成
- 運営補助者
役割：地域クラブの指導、大会引率、会計処理等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

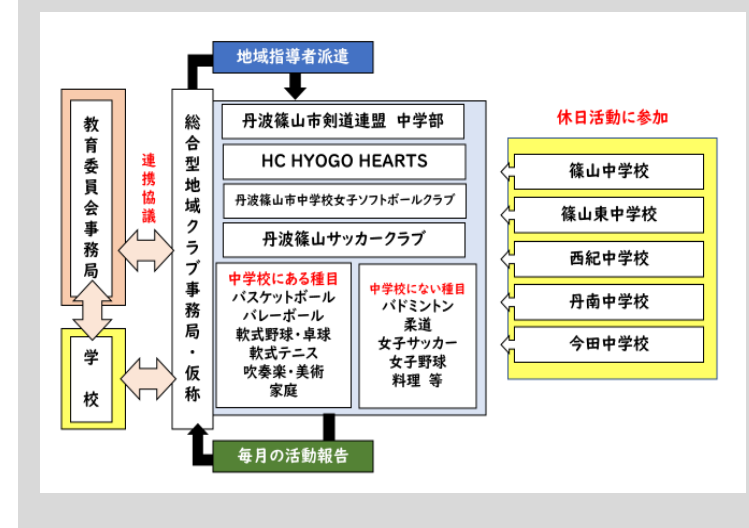
取組事項

令和6年度は運営事務局である教育委員会（総括コーディネーターも配置）が、各地域クラブ運営団体と学校現場との調整や、報酬の支払い等、地域クラブ活動実態把握を行った。将来的にこの機能を外部にうつし、「総合型地域クラブ事務局」の設立を目指している。事務局設立は今後、協議を進めていく。

取組の成果

部活動改革の方向性の周知を図るため、教育委員会が主体となって各中学校、顧問への説明会を実施した。また、先行実施地域クラブとは、連絡協議会を開催し、成果と課題、今後のあるべき方向性について協議を行った。先行実施地域クラブ（サッカー、剣道、ホッケー、ソフトボール）には、運営事務局の設置と、事務処理について依頼。指導者の勤怠管理、運営費の活用事務処理を行った。また保護者からの相談には、事務局が主体となり、教育委員会と連携しながら行った。事務局と教育委員会の連絡調整は総括コーディネーターが担った。

目指す将来像



特に工夫した事項

総括コーディネーターが中心となり、学校現場や地域クラブ活動の現場を積極的に視察した。現場の状況や課題を整理し、今後に向けて教育委員会内で協議を図った。

コーディネーターの具体的な動きの実績

総括コーディネーターを教育委員会内の教育研究所に配置。部活動地域移行全般の業務、地域クラブや学校との連絡調整を担った。保護者や学校への周知のためのチラシ作成、毎月の地域クラブからの活動実績の確認、事務処理、協議会の原案作成を担った。

今後の課題と対応方針

現在教育委員会内に置いている事務局を外部にうつし、「総合型地域クラブ事務局（仮称）」設立への協議を進める。そこへ向けて令和7年度は地域クラブガイドライン作成をはじめ、学校施設利用、学校用具利用のルール作りについて、策定を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項（イ）

地域移行・・・教育委員会事務局が受皿団体と連携し、そこから中学生指導にふさわしい人材を地域クラブ指導者として派遣。

地域連携・・・各中学校のニーズにより部活動指導員・推進員を配置。教員に
かわり部活動指導を行う。

取組の成果（イ）

地域クラブ指導者については、4 種目計 16 名在籍している。うち 8 名は教員が兼職兼業で行っている。その他については元教員、地域の指導経験豊富な人材が参加している。部活動指導員については、5 校 16 名（バレー、陸上、ホッケー、剣道、卓球、吹奏楽）配置し、顧問の負担軽減を図った。部活動指導員のうち 2 名は、地域クラブ指導者を兼務している。

地域クラブ指導者		
	指導者数	内教員数
剣道	4	1
ホッケー	6	2
ソフトボール	3	2
サッカー	3	2

部活動指導員数推移			
	要望数	実配置数	割合
R2	19	17	89.5%
R3	17	14	82.4%
R4	16	13	81.3%
R5	17	15	88.2%
R6	17	16	94.1%

今後の課題と対応方針

丹波篠山市は部活動地域移行（地域クラブ化）、地域連携（部活動指導員配置）の両面をにらみ、令和 7 年度以降種目の実情に応じて配置していく。人材確保が最大の課題であるが、スポーツ協会等へも案内し、確保に努める。

ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（ウ）

部活動地域移行コーディネーターを配置し、地域移行、地域連携の効果的な実施に向けて、種目ごとの関係団体と連絡調整を行った。また教育委員会事務局及びコーディネーターが、学校と受皿団体、部活動指導員との連絡調整を図った。

取組の成果（ウ）

本市には、総合型スポーツクラブのようなものではなく、種目ごとの地域クラブと市教育委員会が連携し、持続可能な活動実施に向けて協議した。先行的に実施した 4 種目では、地域指導者の指導のもと、総合体育大会等公式大会に参加し、県、全国の大会で好成績を収めている。

軟式野球、ソフトテニス、バスケットボールの受皿団体、指導者確保が優先課題
※美術、家庭は現状休日活動をしていない

種目別顧問、部活動指導員、地域クラブ指導者の様子				
	部数	顧問数	部活動指導員	地クラブ指導者
軟式野球	5	10	0	0
サッカー	2	4	0	3(2)
ソフトボール	2	3	0	3(2)
ソフトテニス	6	12	0	0
陸上競技	2	4	1	0
ホッケー	5	5	1	6(2)
バレー	7	14	3	0
バスケット	4	8	0	0
卓球	6	12	2	0
剣道	1	2	1	4(1)
吹奏楽	5	10	3	0
美術	2	3	0	0
家庭	1	1	0	0

※バレー、バスケ、卓球、テニスは男女別部数込 ※↑()教員

今後の課題と対応方針

さらなる地域クラブ活動の強化、部活動指導員の配置増に向けて地域の受皿、地域指導者や部活動指導員の人材確保が最重要課題となっている。地域の競技団体や連盟との連携は不可欠であり、さらなる協議を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

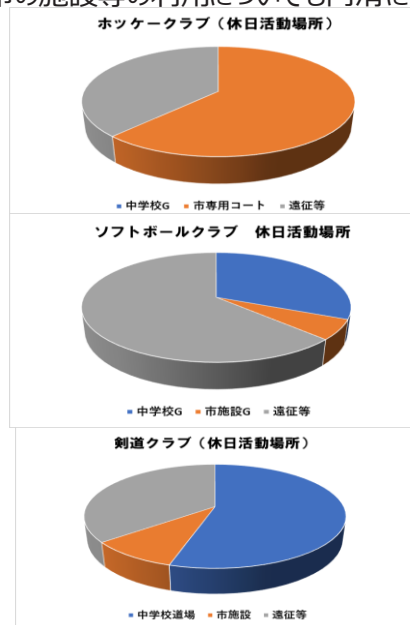
キ：学校施設の活用等

取組事項（キ）

学校と連携している地域クラブについて、学校施設の利用を積極的に行う。
（学校施設利用願を提出）社会体育利用時のルールに則り、学校施設利用のためのルール作りを進める。学校外の市の施設等の利用についても円滑に利用できる環境整備を進める。

取組の成果（キ）

令和6年度活動開始の地域クラブについては、練習の活動拠点を市内中学校で行った。学校施設利用については、学校施設利用願を中学校に提出し、許可を得て使用し、使用料については「丹波篠山市公の施設利用条例第3条」により減免を原則とした。市内学校施設利用以外に、市のスポーツセンターやナイター設備を利用する際は、利用料について保護者負担とした。



今後の課題と対応方針

丹波篠山市は部活動地域移行（地域クラブ化）、地域連携（部活動指導員配置）の両面をにらみ、令和7年度以降種目の実情に応じて配置していく。全ての種目に複数配置するための人材確保が最大の課題である。

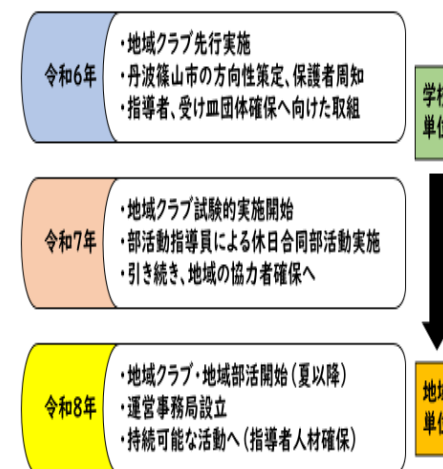
ク：その他（今後の方向性に向けて）

取組事項（ク）

「丹波篠山市部活動改革における方向性」を策定し、令和8年夏以降を目途に、種目により「地域移行型」「地域連携型」のハイブリッドで、地域単位の活動を推進する。原則休日の活動に教員が従事しない体制づくりを目指す。（兼職兼業を望む教員除く）。令和6年12月、小中保護者へ文書で周知した。

取組の成果（ク）

令和6年度、先行実施として4種目で地域クラブ活動を開始すると同時に、部活動指導員の配置も拡充した。その成果を生かし、引き続き地域クラブ、部活動指導員の拡充に向けた取組を進める。令和6年2月以降、部活動指導員の人材バンク登録、新規地域クラブの受皿団体の公募等を進めて、地域のスポーツ・文化芸術活動の充実を目指している。



今後の課題と対応方針

部活動指導員、地域クラブ指導者の人材確保が最大の課題となる。元教員や地域のスポーツ協会や吹奏楽連盟にも声をかけ、協力体制を整えていくことを進めていく。また持続可能な活動へ、若い世代の指導者の確保も目指している。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括（R6先行実施地域クラブ活動について）

令和6年度は、地域移行に向けた先行実施として4種目5団体（剣道、サッカー男女、ソフトボール、サッカー）で年間を通して実施することができた。※サッカーについては8月以降に地域クラブ活動開始

それぞれの運営団体へ委託契約し、教育委員会が各地域クラブ事務局担当者や指導者とも連携を図り、年間の活動について支援した。剣道、ホッケー、サッカーについては、地域クラブについて啓発を丁寧に行ったことで、新入生の参加も増え、中体連大会にも地域クラブとして参加できた。ソフトボールは試合可能な人数を揃えることができなかったが、他市の中学校と合同チームを組むなど工夫した取組を行った。

受益者負担は各地域クラブで月謝や年会費を設定し、用具購入や保険料支払いに充てている。サッカークラブは応援サポーターを募集したり、剣道クラブはTシャツ販売したりするなど、クラブ独自の取組もあった。

市として、地域指導者への指導謝金を支援し、大会参加等についても部活動同程度の支援を行うことができた。3月に1年間の総括を行い、次年度への取組につなげる予定である。

●成果の評価

（学校との連携）各地域クラブに、教員も指導に参加しており平日の部活動との連携をスムーズに行うことができ、1年間を通じて大きな問題はなかった。

（休日の活動について）各地域クラブの指導者による熱心な指導により、充実した活動となった。ホッケーは全国大会で優秀な成績を収め、剣道も県大会出場を果たしている。しかし、さらなる活動の充実に向けガイドラインに即した活動の徹底など、今後も丁寧に周知を図っていく必要性も感じた。

（受益者負担とのバランス）令和6年度の5団体については、市から支援のもと充実した活動につなげることができた。ただし、今後さらなる地域クラブの増加が認められ、参加者へどれだけの受益者負担を求めるのか、公的支援とのバランスをどうするか等は今後も議論が必要と感じた。

●今後に向けて

令和6年度先行実施した5団体については、引き続き活動を継続する予定。令和6年度は各地域クラブと委託契約を結んだが、今後地域クラブ増加を想定し、将来的に運営事務局設立を目指しているため、令和7年度はそれぞれに委託せず、補助金ベースで支援を行う。（将来的には運営事務局に委託を目指す）

本市の現状から受皿となる団体の確保は難しく、地域クラブ受皿団体の確保を目指しつつ、現在お世話になっている部活動指導員による休日合同部活動等の取組を並行する。令和8年へ向けて「地域移行」「地域連携」のハイブリッド型を目指す。

スポーツ庁

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【丹波篠山中学校女子ソフトボールクラブの活動】
大学生からの講習会の様子。丁寧な技術指導を受けた。



【HC HYOGO HEARTS（男子チーム）の活動】
市内スポーツ施設専用コートでの練習の様子



【丹波篠山サッカークラブ】
8月 協会、市教委を招き地域クラブ結成式の開催。
複数校の中学生での合同チームの活動がスタート。



【HC HYOGO HEARTS（男子チーム）の活動】
全国大会参加時の様子

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

○地域移行
地域クラブ活動先行実施
○地域連携
部活動指導員各校への配置

○地域移行
受皿団体公募
○地域連携
部活動指導員の人材バンク登録開始
○保護者への周知

令和7年

○地域移行
・先行実施クラブ活動継続
・試験的短期間実施開始
○地域連携
・休日合同部活

○生徒、保護者へ周知
○試験的实施した地域クラブとの協議
○学校との協議

令和8年

○地域クラブ・地域部活動の本格実施（夏以降）
○総合型地域クラブ・地域部活運営事務局設立

令和9年

丹波篠山市地域クラブ、地域部活（名称未定）活動開始

●ステークホルダー

教育委員会（学校教育課・社会教育・文化財課）
地域クラブ（ホッケー男女、サッカー、剣道、ソフトボール）
部活動指導員（5校16名）

●経過

（地域移行について）4種目で地域クラブ活動を実施した。2月に成果と課題を協議し、次年度のさらなる効果的な実施へつなげる。

●実施にあたって生じた課題

ガイドラインの徹底について。土日どちらかの活動については徹底できたが、3時間程度については徹底できず、長時間活動につながる面があった。

●実施内容、工夫した点

ホッケー、剣道、サッカーは地域クラブとして公式試合に参加。平日に部活がない学校の生徒も参加可能とした。（サッカー、剣道、ホッケーで数名ずつ参加）

●ステークホルダー

教育委員会（学校教育課・社会教育・文化財課）
地域クラブ受皿団体
部活動指導員・各中学校

●経過

R6実施の地域クラブは継続的に活動。
新規公募の地域クラブは試験的实施として年会数回（例 休日に月1回、期間限定等）学校と連携して行う。部活動指導員配置部活動は、休日に複数校で合同部活動を試験的に行う。

●実施にあたって想定される課題

・学校との連携
・全ての種目、文化活動において受皿団体、部活動指導員等を配置できるか？

●実施内容、工夫する点

地域クラブの試験的实施、部活動指導員の休日合同部活動は、学校単位ではなく地域単位を基本として、市内中学生誰でも参加可能とした活動とする。

●ステークホルダー

教育委員会（学校教育課・社会教育・文化財課）
総合型運営事務局（地域クラブ・地域部活）
部活動指導員・各中学校

●経過

全ての種目、文化芸術活動において、休日活動は、地域単位での地域クラブ（地域移行）か地域部活動（地域連携）を実施する。それら全ての活動団体を管理する運営事務局を置く。

●実施にあたって想定される課題

・平日活動との連携。平日移行へ向けたプロセス。
・教員に代わる指導者の確保。
・指導者の質向上に向けた取組の充実
・受益者負担と公的支援のバランスをどうするか？

●実施内容、工夫する点 等

休日活動のすべてを地域単位で行う。R6現在50以上ある学校部活動を約半数に削減し、生徒数が減少しても持続可能な活動になるように取り組む。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

